

英語



(13) 英 語

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行うなど、主体的・対話的で深い学びの実現を図る工夫 (2) 簡単な語句や基本的な表現などの定着を図る学習内容の充実など、言語能力の育成を図るための工夫 (3) 視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、学習活動の充実を図るための工夫 (4) 児童が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 児童の興味・関心に合った言語活動の題材の工夫 (7) 他の教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりする工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮
3 その他	我が国の文化や、他の国々の文化に対する理解を深め、国際協調の精神を養う工夫

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	NEW HORIZON Elementary English Course NEW HORIZON Elementary English Course Picture Dictionary	2 東 書

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童の身近な話題を題材とし、生活の中で英語を使うという使用場면을重視するよう設定されており、主体的に学ぼうとする意欲をもたせるよう工夫されている。リスニングの活動では、場面や状況をイラストや写真で示し、内容を推測しながら取り組めるよう配慮されている。また、単元目標に対応した22の「めざす姿」を設定し、目的や場面、状況等に応じて児童が既習事項を選択して表現できるようにすることで、主体的・対話的で深い学びの実現に対する工夫がされている。

〔例〕 6年P14～15 Unit 2 「Starting Out」、5年P6～7、6年P2～3 「もくじ」(めざす姿)

- 各Unitの2番目のパートである「慣れる」(Your Turn)では、重要表現に慣れるよう、ペアワークやグループワークで、やり取りを通して繰り返し聞いたり話したりする構成になっている。脚注Word Linkの別冊参照ページを開くことでやり取りの幅を広げる等、工夫されている。また、Sounds and Lettersでは、児童がアルファベットの音を少しずつ学びながら、巻末のノートに書いていくようになっており、負担なく積み重ねていけるよう工夫されている。また、過去形(動作を表す語)や頻度を表す語等、話題に変化をつけながら何度も繰り返して取り扱い、定着を図るよう工夫されている。

〔例〕 6年P36～37 Unit 4 「Your Turn」、 「Word Link」、 「Sounds and Letters」

6年P34～39 Unit 4、P50～55 Unit 6、P64～69 Unit 7 (過去形)

- 映像や音声をふんだんに用いて効果的に学習できるよう工夫されている。教科書及び分冊の紙面には、二次元コードやURLが示され、映像や音声などのデジタルコンテンツにアクセスできるようになっており、児童が学校だけでなく、家庭においても映像や音声にふれて、興味・関心を高められるよう工夫されている。

〔例〕 5年P17 Unit 1 「Interviews! 日本のすてき」

- すべてのUnitが、「音に出会う」「会話に慣れる」「コミュニケーションを楽しむ」「世界を広げる」という4つのパートの基本構成になっていることで、児童が見通しをもって活動できるよう工夫されている。Check Your Stepsでは、巻末コミュニケーションカードを使った成果物を貼ることができ、テーマに沿ったスピーチをしたり、それをもとにコミュニケーションを行ったりできるよう工夫されている。また、「ふり返ろう」への記入とあわせて、ポर्टフォリオとして評価や振り返りの材料となるよう工夫されている。

さらに、英語で何ができるようになるのかを別冊にも示し、児童がゴールの姿をイメージできるよう工夫されている。

〔例〕 5年P4～5 「たくさんの発見をしながら、英語を学ぼう。」

6年P80～81 「Check Your Steps 3」

別冊P44～45 「英語で何ができるようになるのかな？」

- 各学年2つ目のまとまりである「地域紹介」では、自分の住んでいる地域のことを紹介したり、世界と日本とのつながりを考えたりするなど、地域社会と連携した学習ができるよう工夫されている。また、Check Your Stepsの中で完成した作品を使って、地域・社会との連携を図ることもできるよう工夫されている。

〔例〕 5年P37 「Open the Door 2」、P62～63 「Check Your Steps 2」

- 児童の身近な生活を舞台とし、2年間を通したストーリーを設定し、日常生活や学校生活に関連する場面が多く取り入れられ、児童が、自分のこととして自らの学校生活と重ね合わ

せながら学ぶことができるよう配慮されている。

- 6年Unit 5は、理科で学習した「食物連鎖」の内容をもとに学習できるよう工夫されている。また、図画工作科と関連されたカードづくり、算数科のたし算、音楽科の和楽器、家庭科の栄養素、社会科の食料や輸出入等、他教科等との関連が図られるよう配慮されている。また、それらの箇所には、他教科等との関連があることがわかるようマークが示されている。

〔例〕 6年P42～49 Unit 5 「We all live on the Earth」 (理科、社会科等)

6年P50～59 Unit 6 「Let's think about our food」 (家庭科、国語科等)

## 2 使用上の便宜

- 第5学年では日本を、第6学年では世界をテーマに学習内容を組織し、異学年で使う表現や話題をつなぎ、各学年8つのUnitを3つのまとまりとしている。自分から出発し、地域、日本、世界を考え、再び自分を見つめられるよう工夫されている。8つのUnitの他に、テーマ別のまとめとして年3回、学びを「振り返り」、伝える力を「確かめる」ためのCheck Your Stepsがあるという構成になっている。

〔例〕 6年表紙裏、P1 「『6年生のテーマ』世界に生きるわたしたち」

- 別冊があり、別冊のPicture Dictionaryは、2年間使い続ける構成になっている。別冊には、中学校の学習にも配慮して選定された、小学校で学びたい語や表現がジャンル別に収録されており、持ち運びの負担に配慮した小判になっている。本体は、文字の書き込みやすさやカードの貼りやすさに配慮した大判になっている。また、1ページで1単位時間扱いの見開き構成になっており、学びやすいよう工夫されている。

- 巻頭に、テーマと3つのまとまりを写真で示し、学習の見通しをもてるよう配慮されている。第5学年では、次の2ページにわたって、「英語ができるようになったらできること」を写真と文で示し、英語学習への期待が高められるよう工夫されている。目次では、3つのまとまりを意識できるように、Unitの部分が色分けされている。巻末には、コミュニケーションカードがあり、活動を通して、児童の思いを形にして楽しみながら学べるよう工夫されている。また、第5学年では、アルファベットの書き方、第6学年では、アルファベットチャートが資料として記載されている。

〔例〕 5年P2～3 「英語ができるようになったら、未来が広がるよ！」

- 外国人児童が日本語を介さずに指示を理解できるよう、4技能がキャラクターで示されている。また、学習過程がわかりやすいよう、活動が紙面上の定位置に配置されている。巻末コミュニケーションカードにミシン目を入れて切り離しやすくしたり、巻末の4線ノートを書き込みしやすい紙質にするなど配慮されている。文字に関しては、ユニバーサルデザイン字体を使用し、4線の幅や基線の色使いにも配慮されている。

〔例〕 5年P2～3 (4技能のキャラクター：スピーキング・バード等)

## 3 その他

- 第5学年のUnit 7～8は、「日本」をテーマに日本のことを紹介する単元であり、それを受けて第6学年のUnit 4～6「世界と日本」で世界と日本のつながりを考えるなど、文化に対する関心や理解を深めようとする態度が養えるよう工夫されている。また、各Unitの最後に「世界を広げる」(Over the Horizon)が設けられ、内容に関連するクイズや英語を使う活動があり、言語の背景にある文化等をより深く学ぶことができるよう工夫されている。

さらに、外国で活躍する日本人や日本で活躍する外国人を豊富に取り上げ、グローバル社会を生き抜く力を育成するという観点が重視されている。

〔例〕 5年P24～25 Unit 2 「Over the Horizon 世界の一年について考えよう。」

5年P80～81 Unit 8 「Over the Horizon 日本生まれのヒーローについて考えよう。」

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	Junior Sunshine	9 開隆堂

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 第5学年では、自分の名前や好きなものの紹介等、自分のことについて英語で表現する内容から始まり、あこがれの人、年賀状の作成、特別な人へのメニュー、自分の町の紹介等、広い場面・状況で英語を活用するよう配慮されている。さらに第6学年では、日本の紹介、世界の衣食住、世界で活躍している人など、国際社会を意識させる内容へと広がるよう工夫されている。各lessonのLet's Playでは、そのlessonでの学習内容を踏まえ、ペアやグループで自分の考えや気持ちを伝え合う活動が設定されている。さらに、第5学年も第6学年も、Project 1、2が用意され、協力し合ってゲームやクイズをする活動、グループで自己紹介をし合う活動、お世話になった人に感謝の気持ちを伝える活動等、既習の表現を使って主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう工夫されている。

〔例〕5年P56～59 Lesson 7 「Happy New Year」、P33～37Project 1 「パーティーを楽しもう。」

- どのlessonも、まずリスニングによるインプットから始め、ゲームやチャンツなどの活動で基礎を身につけられるよう配慮されている。ほぼすべてのlessonにおいて、Let's Listen → Let's Play → Let's Try の過程で目標表現を使った活動を段階的に繰り返し、定着を図るよう工夫されている。また、互いの考えや気持ちを伝え合う基本的な表現 (like, can, want (to), have) や身近なものを表す表現 (食べ物、スポーツ、年間行事、学校生活、身の回りのものなど) が、2年間にわたり繰り返し提示され、自分のことを伝え合う言語活動がしやすいよう工夫されており、重要な表現を自然に繰り返し学習できるよう配慮されている。書く・読む活動は、教科書の後半にまとめられ、第5学年の「大文字を書こう。」から第6学年の「ポスターから情報を読み取ろう。」まで、lessonごとに段階的・体系的に学習できるよう配慮されている。

〔例〕5年P82 Lesson 1 「大文字を書こう。」、6年P100 Lesson11 「ポスターから情報をよみとろう。」

- 各単元に視聴覚教材が用意され、音声や動画を有効活用し、児童の興味・関心を高めるよう工夫されている。また、音声や動画など学習に効果的なコンテンツが活用できるよう二次元コードやURLが表記されている。

〔例〕5年P18～19 Lesson 3 「Let's Listen 1」、「Let's Watch and Think」

- 表紙の裏に「CAN-DOマップ」が提示され、一年間で学習する内容の見通しをもちやすいよう工夫されている。各単元の最後に、「ふりかえりをしよう」の欄を設け、学習したことを児童自身が振り返ることができるよう工夫されている。

〔例〕6年表紙裏 (CAN-DOマップ)、P5 Lesson 1 「ふりかえりをしよう」

- 随所に地域的な話題を取り上げることで、児童が自分の住んでいる地域について考えるきっかけとなっている。第5学年「わが町しようかい」では、自分たちの町について紹介したり、ポスターを作ったりする活動があり、伝えたい、調べたいという意欲を高めるよう工夫されている。

〔例〕5年P68～73 Lesson 9 「I love my town.」、P74 「『自分の町しようかい』ポスター」

- 第5学年では名刺交換をしよう、プロフィールカードを作ろう、年賀状を作ろう、ランチメニューを考えよう、第6学年ではツアープランナーになろう、短冊に願いを書こう、思い出を絵本にしよう等、児童の興味・関心を高めるよう言語活動の題材が工夫されている。

〔例〕5年P26～32 Lesson 4 「Can you do this?」、6年P52～59 Lesson 9 「My Favorite Memory」

- 目次や各lessonの活動のページに、他教科との関連がわかるよう教科ごとのマークが示されている。社会科の世界と日本との関わりや様々な国の様子を知る学習と関連付けた内容、地図記号や日本の地理の学習と関連付けた内容、家庭科の食品と栄養素の学習と関連付けた内容の他、理科、国語科、図画工作科等、他教科等との横断的な学習や活動ができる内容が豊富に取り入れられている。また、多彩な職業を多くの箇所で示すことで、キャリア教育についての配慮がされている。第5学年のLesson5の最後には、「プログラミングで道案内」が配置され、プログラミング学習に関連する活動が取り入れられている。

〔例〕 5年P12～17 Lesson2 「When is your birthday?」 (国語科、社会科)

6年P66～67 Lesson10 「I have a dream.」 (キャリア教育)

## 2 使用上の便宜

- どのlessonも、聞く活動から始まり、簡単な表現を発音する、チャンツをする、簡単なゲームの中でやり取りをする、自分のことを話す、相手とやり取りをする、グループまたはクラスの前で発表する、のように、たくさんのインプットからインテイク、アウトプットへと活動が配置されている。文字、読み・書きの学習は、教科書の後半にまとめられ、高学年で初めて英語の読み・書きを学習する児童が、lessonの中で話す・聞く活動に焦点を置きやすいよう配慮されている。学習内容の分量は、1単位時間の授業内容が1ページ程度になっており、児童に過重な負担にならないよう配慮されている。
- 判型はA B判で、児童が机の上で扱いやすい大きさになっている。児童が読み書きするページでは、鉛筆で書きやすく、消しゴムで消しやすい紙が採用されている。また、製本は、大きく開くことができ、堅牢なつくりになっている。
- 目次の各lessonの欄に「文字に慣れよう」の表記があり、それぞれの学年での「書くこと」の学習内容がわかるよう工夫されている。巻末には、付録として、「発音クリニック」、「この教科書で学んだことリスト (各学年)」、「単語リスト (各学年)」、「絵カード」、「ローマ字表 (へボン式)」、「アルファベット」がつけられている。「絵カード」は、厚手の紙に印刷され、切り離してそのまま授業の活動の中で利用することができるよう工夫されている。また、第6学年では、「中学校につなげよう」も巻末付録に加えられており、中学校への接続を図る工夫がされている。

〔例〕 5年P2～3 「もくじ」、P108～113 「この教科書で学んだことリスト」

- 日本語の文章表現は、意味のまとまりのある表現の途中で切れることがないように文節で改行されているなど、児童が読みやすいよう配慮されている。絵や写真、図が豊富に使用され、視覚的に理解を助けるよう工夫されている。また、色遣い、色に関する記述が配慮されていたり、隣り合う色の区別がつきやすくなり、色には文字も付加したりするなど、カラーユニバーサルデザインに関する配慮がされている。1ページごとの余白が十分確保され、視覚情報量が児童の負担にならないよう配慮されている。

## 3 その他

- 日本や他の国の文化から児童に親しみやすいもの (食べ物、自然、世界遺産等) を取り上げ、それらの写真を多く掲載し、児童の興味・関心を高め、理解を深めるよう工夫されている。日本の文化と他国の文化を比較する単元では、自国の伝統・文化を再発見できるよう工夫されている。英語を通して、自国のことや外国の文化を学ぶことで、それぞれの国のよさを知り、自他を敬愛し、国際社会の形成に主体的に参画する態度を育むよう配慮されている。また、様々な国の人々を登場させ、国際協調の精神を養うよう工夫されている。

〔例〕 6年P18～23 Lesson4 「Welcome to Japan.」

P40～45 Lesson7 「Watch the world.」

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	JUNIOR TOTAL ENGLISH	1 1 学 図

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 小学校高学年の日常生活が舞台となっており、児童にとっての身近な話題が豊富に取り上げられている。学級での朝の様子、スーパーマーケットや休日のデパートの様子、友だちの家に遊びに行った時の様子、授業前の教室の様子、町内会の行事等、実際に児童自身が経験したことがあるような場面や、海外のレストランの場面や海外から転校生が来る場面等、児童が自分の生活の中でも使える、将来使ってみたいという意欲をもたせるような場面設定となっている。各lessonは、2～3つのSceneに分かれており、各Sceneは3コマのイラストで示され、内容を推測しながら取り組めるよう配慮されている。また、各lessonには、2～3回のSmall Talkのアクティビティが組み込まれ、その単元で学んだ表現を使った主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう工夫されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P70～80 Lesson 5 「What time do you get up on Sundays?」、  
P72～73 L. 5A 「Let's Listen Let's Chant」、 「Small Talk」

- 各lessonをA、B、Cの3つまたはA、Bの2つのセクションに分け、それぞれのSceneを設定し、1セクション2単位時間で同じ目標表現を繰り返し学習するように構成されている。また、毎時間行う基本セットをlessonごとに設定している。「基本セット」は、Songs for Lessons、Let's Listen、Scene、Let's Chant で構成されており、内容は聞く活動が中心になっている。「基本セット」を毎時間繰り返すことで、目標表現の定着を図るよう工夫されている。「Let's Listen Let's Chant」の欄には、聞いた回数をチェックするための表記があり、繰り返し聞いて気づきを促すよう工夫されている。年間10回のAlphabet Cornerでアルファベットの読み書きを繰り返し、定着させるよう工夫されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P7 「学習の流れ」、P24 L. 1A 「Let's Listen Let's Chant」  
P32 Alphabet Corner 「大文字さがし」

- インターネットのコンテンツを活用できる「クラスルーム・イングリッシュ」、「あいさつをしましょう」等のページには二次元コードが表記され、音声を聞くこともできる。各セクションには、視聴覚教材が用意されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P8～9 「クラスルーム・イングリッシュ」、P36 L. 2A 「I'm thirsty.」

- 各Lessonの最初のページに「レッスンのとびら」が設定され、レッスンの目標、学習の進め方が表示されており、児童が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。また、各活動につけられている番号(①、②、③等)は、1単位時間分ずつ色分けされており、1単位時間に学習する量が児童にもわかりやすいよう工夫されている。Book 1、Book 2とも、Lesson 1の前にPre-lessonを設定し、前学年までに学習した内容を振り返り、次の学習にスムーズに進めるよう工夫されている。単元の最後のページに「Check Time」の欄を設け、学習したことを児童自身が振り返ることができるよう工夫されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P21 Lesson 1 「What sport do you like?」 (レッスンのとびら)  
P17～20 「Pre-lesson」、P31 「Check Time」

- 夏休みに出かけた場所や、自分たちの地域でできることの紹介など、自分たちの地域について考える内容が取り入れられている。

〔例〕 Book 2 (6年) P53～63 「Lesson 4 I went to my grandparents' house.」  
Book 2 (6年) P67～75 「Lesson 5 We have a big park.」

- 各lessonの初めの聞く活動では、始業前の教室、朝の校庭、教室の窓から見える町の様子、習い事、雑貨店での買い物、レストランでの注文等、児童の生活に密接に関わる場面が多く

取り上げられている。また、Small Talkでは、身近で具体的な内容を示し、児童が興味・関心を持って言語活動に取り組めるよう工夫されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P33~43 Book 2 (6年) 「How many CDs do you have?」

Book 2 (6年) P45 「Small Talk」 (あなたの好きな食べ物をしょうかいしましょう。おいしそうに言えましたか。)

- 他教科との関連がある内容は、マークを使ってわかりやすく表示され、各lessonに組み込まれている。国語科、社会科、算数科、理科、音楽科、家庭科等、多岐にわたった他教科等との関連が図られている。また、算数科の面積や対称な図形の学習内容に「ロボットを動かそう!」を組み合わせ、プログラミング学習を意識した活動が工夫されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P27 「世界の楽器」 (音楽科)

Book 1 (5年) P63 「ロボットを動かそう!」 (プログラミング学習)

## 2 使用上の便宜

- 各lessonは、「聞く」→「聞いて繰り返す」→「話す(やり取り)」→「話す(発表)」 「読む」「書く」と内容が配列されている。豊富なインプットの活動から始まり、「聞いて繰り返す」という簡単なアウトプット、さらに「やり取り」や「発表」といった児童が自分のことを伝えるアウトプットへと活動が配置され、易から難へと段階的に進められるよう配慮されている。1ページが1単位時間の授業の内容になっており、児童に過重な負担にならない分量になっている。1つの活動を15分で行う構成になっており、短時間学習に対応したつくりになっている。

〔例〕 Book 2 (6年) P4~7 「『JUNIOR TOTAL ENGLISH 2』で学習しましょう!」

- 判型はA版で、大きく見やすい誌面になっている。
- 表表紙の裏には、Book 1では、「英語が使われているいろいろなシーン」の写真が掲載され、児童の身近で見られる英語の表示が紹介されている。また、避難場所を知らせる表示、津波注意の看板等、危険から身を守るための表示に英語が使われている実例も示されている。Book 2では、「英語を使用する職業」として、通訳、翻訳者、パイロット等の写真が紹介されている。巻頭には、各lessonのテーマと目標表現が簡潔に表記された目次、教科書の使い方、学習の進め方、「クラスルーム・イングリッシュ」、これまでに学んだことを振り返るPre-lessonが用意されている。巻末には、毎時間行う「基本セット」の中のSongs for Lessonsの歌詞、Word List、ローマ字表等が用意されている。

〔例〕 Book 1 表表紙裏「英語が使われているいろいろなシーン」、P2~3「目次」

- イラストや写真が豊富に使われ、視覚的に理解を助ける工夫がされている。カラーユニバーサルデザインや、見やすい字体が採用されている。4線の間隔を5:6:5にすることで、小文字を書きやすくする工夫がされている。巻末のWord Listは、すべてイラストと文字で表記されているため、イラストを手掛かりに単語の意味を推測できるよう配慮されている。

〔例〕 Book 1 (5年) P144~151 「Word List」

## 3 その他

- 日本各地の伝統的な祭り、伝統料理、各地の観光地や世界遺産、世界で活躍した日本人等、日本の文化を知り、英語で発信する活動が多く取り入れられ、自国の伝統・文化を再発見できるよう配慮されている。各lessonの最後のページの「Column コラム」では、様々な国を取り上げ、世界の文化や風習、その背景にある思いにふれ、児童が多様な考え方に気づき、自国や他国の文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度や国際協調の精神を養うよう工夫されている。

〔例〕 Book 2 (6年) P41~52 Lesson 3 「What festival do you want to see?」 (日本の祭り)、P90 Column 「どんな人にも快適な生活を」

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	CROWN Jr.	15 三省堂

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- コミュニケーションの場面は、家庭生活、学校生活等、身近な暮らしに関する場面や、買い物、道案内といった英語が使用でき役立つと感じられる場面が設定されており、主体的で対話的に学習に取り組めるよう工夫されている。コミュニケーションの場面で使用できる語彙や表現のリスト、コミュニケーションを行うときに必要な内容等が豊富に配置され、「話す」活動、「聞く」活動に積極的に取り組めるよう工夫されている。また、コミュニケーションの目的、場面設定をわかりやすくするために、多くのさし絵が使用されている。児童が感情移入できるように登場人物の様子が描かれており、それらによって、主体的に活動に取り組めるよう工夫されている。

〔例〕 6年P16～25 Lesson1 「We are from India.」、5年P86～87 Try 「道案内」

- 各Lessonは、たくさんの「聞く・話す」活動で始まり、その後「書く」活動が設定されている。Listen&Talk→Enjoy Listening→Talk to Friendsの流れの中で、新しい語句や基本的な表現などに何度もふれ、繰り返し練習して自然に理解が深まるよう工夫されている。Stepでは、目的・場面・状況に応じて思考力・判断力を働かせ自己表現させることを通して定着を図ったり、グループ活動を通して互いに学び合いながら定着を図ったりできるよう工夫されている。Storyでは、児童になじみのある物語を使って、英語に自然に親しみ、「聞く・読む」活動に取り組めるよう工夫されている。各Lessonのまとめには、「書く」活動がある。自分の考えや気持ちを表すことを通して、文字にふれることができるよう工夫されている。

〔例〕 5年P16～25 STEP Lesson1 「I have many yo-yos.」

P19 Story 「The North Wind and the Sun (北風と太陽)」

5年P48～49 Lesson3 「Write & Speak」

- 豊富な音声教材と視覚教材を使って充実した活動ができるよう工夫されている。二次元コードが随所に配置されており、タブレットやスマートフォンなどのICT機器を使って読み込めば、それぞれの箇所の単語や文の音声を何度も聞くことができるよう工夫されている。そして、家庭学習においても、自主的に学習に取り組めるよう工夫されている。Panoramaは、音声の出る絵辞典のようにになっているので、興味・関心を高めて語彙を増やすことができるよう工夫されている。

〔例〕 5年P26～27 Lesson2、6年P42～43 Lesson3の「Panorama」

- 大単元の構成は、学習の見通しを立てる (HOP) →基礎的・基本的な表現の知識・技能の習得 (STEP) →実際の場面で英語を使用する活動とその振り返り (JUMP) といったスモールステップで構成されており、学習の見通しを立てて、英語を練習しながら身につけ、実際の場面で英語を使ってみて達成感を味わえる振り返りができるよう配慮されている。HOPでは、STEP、JUMPを通して、自分は誰に、どんなことを伝えるようになりたいかを意識できるようになっている。JUMPの振り返りでは、目標が達成できたかどうか自己評価できるよう配慮されている。また、各学年の巻末にあるCAN-DOリストを使って、学年の初めに目標として意識づけをしたり、学年の途中や終わりに振り返ったりすることができるよう配慮されている。そして、それらを通して、わかったことやできるようになったことを確認して、学習への理解と意欲が高められるよう工夫されている。

〔例〕 6年P15 「HOP Get Ready 1」、P38～39 「JUMP Presentation 1」

- 家庭や地域とのつながりを題材とした、コミュニケーションの活動が設定されている。第5学年では、「友だちや家族の紹介」、「おすすめの場所・こと・もの」の題材を通して、第

6 学年では、「友だちや家族」、「日本の文化・他国の文化」の題材を通して、家庭や地域と関わる気持ちを育むよう工夫されている。

〔例〕 5 年 P40～49 Lesson 3 「She is a cook.」 (友達や家族の紹介)

6 年 P88～97 Lesson 7 「At This Moment」 (日本の文化・他国の文化)

- 題材の内容は、児童が興味・関心をもてるような身の回りの日常生活に関するもの、日本の伝統文化および他の国々の文化、動物や自然、将来の職業等が多く取り上げられている。第 5 学年では、「自分のこと」「友だちや先生など身近な人のこと」「日本のこと」等を扱い、第 6 学年では「自分たちのこと」「将来のこと」「世界のこと」等を扱い、題材の内容に広がりや深まりをもたせるよう工夫されている。

〔例〕 5 年 P39 HOP Get Ready 2 「Hello, Mr. Sano!」

6 年 P98 JUMP Presentation 3 「I want to be a .... 20年後のわたしはきっと…」

- 他教科等で学んだことが英語学習の中で生かされ、児童が積極的に学習できるよう工夫されている。また、キャリア教育とのつながりでは、将来の自分の職業について考える題材が取り上げられている。

〔例〕 5 年 P100 JUMP Presentation 3 「Mt. Fuji is beautiful.」 (社会科)

5 年 P108～109 「この日本語、どこから来たの？」 (国語科)

6 年 P78～87 Lesson 6 「I want to be a vet.」 (キャリア教育)

## 2 使用上の便宜

- 分量は、学習・指導上において無理がないよう配慮されている。単元展開や授業展開は弾力的に運用できる構成になっているので、時間数を調節できるよう工夫されている。そして、小学校段階で学習する語彙や文構造について、音声と文で繰り返し学習できるよう工夫されている。

- 紙面の構成は、大判 (A B 判) が使用され、イラストや写真が大きい。

- 「Words & Phrases」等、様々な付録が配置され、授業中だけでなく自主的な学習に活用できる。第 5 学年の巻末には、「時差時計」等のカードや地図を切り取ることができ、それらを使って理解できるよう工夫されている。第 6 学年の巻末には、「絵日記台紙」等のカードを切り取ることができ、それらを使って言語活動に取り組めるよう工夫されている。また、ことばや文化に関するコラムや資料があり、英語を学ぶことの意味やおもしろさに気づくよう工夫されている。

〔例〕 5 年 P112～127 「Words & Phrases」、P110～111 「英語が話されている国ぐに」

- 特別な配慮を必要とする児童への配慮として、文字や図版が見やすい紙面になるように、判型は大判 (A B 判) が使われており、文字の大きさや字体は読みやすいよう配慮されている。どこに何があるかわかりやすくするために、囲み、線、アイコンに工夫がされている。5 領域を示すアイコンを使用することで、どんな活動をするのか一目でわかるよう工夫されている。イラストや図版などは、誰にでも見やすい紙面になるように色の配色や濃淡に配慮がなされ、カラーユニバーサルデザインへの配慮がなされている。

〔例〕 5 年 P7 「この教科書で使われているマーク」

## 3 その他

- 世界にある様々な言語・文化に関心を持ち、英語を学ぶことで広く世界に扉を開くことができるということを理解できるよう工夫されている。また、児童が相手を大切にしながら関わろうとする気持ちや態度を育てる題材を取り上げ、国際社会の形成に積極的に参加しようとする態度を養うよう工夫されている。

〔例〕 5 年 P91 「実世界の英語 海外旅行の計画を立てよう」、6 年 P36 「世界のまつり」

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	ONE WORLD Smiles	17 教 出

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童が主体的に学ぼうとする意欲をもてるよう、学校生活に合った活動やテーマを多く取り入れている。また、外国人に対して説明する場面を設定する等、英語を使う必然性を感じられるよう工夫されている。「Let's Think」では、言語や文化、コミュニケーション等について、気づきや思考を促す問いを設置し、考えを深める機会となるよう工夫している。また、自分との共通点や違い、他の児童のよい点に気づきながら、自尊感情を高めることや他者理解へとつながるよう、ペアやグループで取り組む言語活動等、協力し合いながらの活動がたくさん盛り込まれている。これらによって、主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう工夫されている。

〔例〕 6年P68 Lesson 6 「Let's Think 2 スポーツ選手をどんな人たちが支えているかな。」  
5年P63 Lesson 5 「グループの中で、できることを発表しよう。」

- シールを使って他の児童のための食べ物・飲み物を作成して活動する等、児童が思わず話したくなる、やってみたくなるような、表現意欲を高めるよう工夫されている。繰り返し語句や表現にふれることで、定着を図るよう工夫されている。また、各lessonの終わりには、単語を探したり書いたりする活動や音声と文字のコーナーが設けられ、負担なく文字に慣れ親しむよう工夫されている。

〔例〕 5年 Lesson 7 P84 「Activity 1」、P88 「Sounds and Letters」、P89 「Review」

- 映像や音声に十分にふれて学習できるよう配慮されている。また、インターネットを活用して児童がデジタルコンテンツを視聴して自主的な学習に活用できるよう、二次元コードとURLを目次に掲載している。

〔例〕 6年 Lesson 1 P12～13 「Let's Watch」

- 児童が学習の見通しをもって学べるよう、各lessonの初めに、ねこのキャラクターが紹介する形で目標を明示している。また、児童が興味をもって学べる必然性のある活動の設定と育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って達成度を確認できる振り返り表を通して、主体的・対話的で深い学びを実現するよう工夫されている。

〔例〕 5年 Lesson 1 P15（目標の明示）、P23 「Lesson 1 をふりかえろう」

- 第5学年では、各地の名所や名物をイラストや写真で紹介した日本全国地域ごとの地図をを使って3ヒントクイズ等を作り、やり取りをすることで、地域と関わった取組を行うことができるよう工夫されている。また、第6学年では、自分の住んでいる地域の紹介を通して、地域のよさについて考えたり伝えたりする活動が設定されている。また、第5学年では、家庭での役割を題材とする等、家庭や地域社会と連携した学習を実施しやすいよう工夫されている。

〔例〕 5年P66～79 Lesson 6 「Where do you want to go?」

6年P22～31 Lesson 2 「My town is beautiful.」

- 主体的な学びを促進し、対話的な学びへと導くため、児童の興味・関心に合った題材を設定している。たとえば、第5学年では、夢の教育番組を考える題材、第6学年では、自分の町のおすすめの場所を書いたシートを作り、グループで観光マップを作る題材、第6学年の最後にはこれまでに学んだことを生かして自分のことを書いてMy Bookを作る題材等が取り上げられている。

〔例〕 5年 P37 Lesson 3 「Let's Listen 2」 「Activity」

6年 P28～29 Lesson 2 「Let's Read and Write」 「Final Activity」

## 6年 P101 Lesson 9 「Plus Activity」

- 低学年の道徳科や国語科に使われる教材を、漫画やイラストとともに英語で掲載するなど、他教科で学習した話を読む活動を設けている。第5学年では、都道府県の「名所・名物マップ」を掲載したり、地図記号を扱ったりする等、社会科の学習との関連がある。他にも、家庭科との関連でおすすめのメニュー作り等、他教科等との関連が図られるよう工夫されている。また、第5学年のLesson 1 では自己紹介、同Lesson 2 ではクラスの誕生日カレンダー作りといった、学級づくりとも連携を図れる活動が設定されている。第5学年、第6学年とも、将来の夢というキャリア教育につながる内容を含んだ題材も取り上げられている。さらに、第5学年では、学校のルールや避難訓練の合言葉等、道徳や保健衛生、防災等の観点を含む内容が配置されている。

〔例〕 5年 P72～75 「Welcome to Japan 名所・名物マップ」 (社会科)

6年 P82～85 Let's Read and Act 2 「The Letter (by Arnold Lobel)」 (国語科)

6年 P86～93 Lesson 8 「What do you want to be?」 (キャリア教育)

## 2 使用上の便宜

- 各Lessonの題材内容は、児童の発達段階、興味・関心について配慮されている。学級内での自己紹介から、学校や地域、国内、海外へと、学年や単元が進むにつれて徐々に視点が広がっていくよう配置されている。また、分量については、児童に負担がないよう工夫されている。
- 本体の判型は、A B判であり、大きく見やすい紙面になっている。
- 巻頭には、地球の写真と、世界各国の子どもたちが自分の国の挨拶や将来の夢・好きなことや言葉を掲げた写真を載せている。目次の次のページには、クラスルーム・イングリッシュやコミュニケーションを行うときに大切にしたいこと、1年間の学習目標が載せられている。自分が英語でできるようになりたいことを書く欄もあり、意欲をもって学習を始められるよう工夫されている。巻末には、語句や表現がまとめて載せてあり、学習中も使えるよう工夫されている。発展として、Let's Enjoy the Musicのコーナー、第6学年では辞典の使い方が載せられている。巻末折込には、アルファベット表・ローマ字表が掲載され、参照しやすいよう工夫されている。活動に使う切り取り線付きの絵カードや第5学年では、活動用のシールも用意されている。

〔例〕 5・6年表表紙の裏～P1 「Welcome to ONE WORLD Smiles!」

P4～5 「Classroom English」 「5年生(6年生)の英語の学習が始まるよ」

5年 P112～117 「My Word Bank」

- 本文等、読みやすい位置で改行され、内容を理解しやすいよう工夫されている。コーナーごとのアイコンも一目見ただけで、すべきことがわかるよう工夫されている。また、色覚特性によって影響が生じないよう、カラーユニバーサルデザインとして、識別しやすい配色を用い、アルファベットについては、書くときのアルファベットに近い形状の字体が使用されている。4線の上下幅は、4:5:4とし、書く練習もしやすいよう工夫されている。日本語についても、特別支援の観点で読みやすいユニバーサルデザインの字体を用いている。

## 3 その他

- 国際理解につながるコーナーとして、「Let's Look at the World」が設けられている。5年Let's Look at the Worldでは、外国の学校の様子を知り、自分達の学校の違いや共通点を知ること、6年Lesson 3では、好きな日本文化を紹介するポスターを作って発表する活動等を通して、伝統文化を尊重し、国際社会の平和を願う気持ちを育むよう配慮されている。

〔例〕 5年 P45 「Let's Look at the World 1」、6年 P32～41 Lesson 3 「Welcome to Japan.」

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	Here We Go!	3 8 光 村

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 第5学年、第6学年を通して一貫したストーリーになっている。第5学年の児童が、オーストラリアやアメリカ、インド出身の友だちと交流し成長していく内容となっており、それぞれ異なる文化的背景をもった登場人物たちの交流と成長、彼らが学校生活の中で協力し合う姿にふれることができる。児童の興味・関心を引き出す内容を設定することで、主体的な学習を促すよう工夫されている。各Unitの最後には、「できる」「考える」「深める」という3つの観点による「ふりかえろう」のコーナーが用意されている。Unitの学習を主体的・対話的で深い学びの観点からも振り返ることができるようになっている。

〔例〕 5年P27「ふりかえろう」

- 各Unitは、Hop!→Step 1→Step 2→Jump!の順で構成されている。Stepのページは見開きで構成されており、ストーリーの中のターゲットとなる表現に気づくことから始まり、聞く活動→チャンツ→簡単な練習→言語活動→書く活動と、スモールステップを踏めるよう配慮されており、繰り返し表現に慣れ親しみながら定着が図れるよう構成されている。また、第5学年、第6学年ともLet's startを設け、中学年の外国語活動や前学年までに学習した英語の表現に繰り返しふれることができるよう工夫されている。読み書きの学習においても、段階を追って繰り返し慣れ親しめるよう配慮されている。

〔例〕 5年 P10～19「Let's start!」

P55右下「 」、P134～135「Sounds and Letters」

- 映像資料を視聴して考える活動が全Unitに設定されている。ストーリーはアニメーション動画が用意されており、コミュニケーションの場面や状況を視聴することができる。映像の一部と音声は、二次元コードを使用して参照できるようになっている。

〔例〕 5年P20「Story」、P22「Let's watch.」

- 巻頭には各UnitのGoalを一覧できる「もくじ」、学習の仕方を視覚的に示す「教科書の使い方」、「5年生（6年生）でできるようになること（CAN-DO）」が示されている。Hop!のページには単元のゴールが示されており、できるようになることを確認してから学習を始められるよう工夫されている。Stepのページは見開きで構成されており、聞く活動から徐々に話す活動、書く活動へと進むよう工夫されている。Jump!のページでは、慣れ親しんできた表現を読む活動や、話し合う活動等、単元のゴール活動に取り組むよう配慮されている。

〔例〕 5年 P6～7「教科書の使い方」P8～9「5年生でできるようになること（CAN-DO）」

Unit 9 P107右上「Goal」、P108～109「Step 1」、P112～113「Jump!」

- 家の手伝いを題材にしたり、家族のよいところに着目する題材を扱ったり、地域のよいところを発表する活動を行ったりする等、家庭や地域への関心を高めるよう工夫されている。

〔例〕 5年 P52～59 Unit 4「What time do you get up?」

6年 P70～77 Unit 6「This is my town.」

- 各Unitには世界12か国に住む小学生たちが実際に話しかけるWorld Tourのコーナーが設けられている。英語を使うことを楽しみながら自分の考えを話す同年代の小学生の姿を視聴することによって、児童の学習意欲が高まるよう工夫されている。Unitを支える教材として、Fun Timeがある。Fun Timeは「文字遊び」を系統的に位置づけており、楽しみながらアルファベットの字形、読み方、音に慣れるよう配慮されている。題材については、自分のことや地域のことを伝える、夏休みの出来事や感想を伝える、中学校で入りたい部活動を伝える等、児童にとって身近な場面を設定し、関心をもちやすいよう工夫されている。

〔例〕 6年 P24「World Tour」、P36～37「Fun Time 2」

(題材例) 5年 P20～27 Unit 1 「Hello, everyone.」

6年 P50～57 Unit 4 「My Summer Vacation、」

- 国語科との関連を図るため、各学年に「言葉について考えよう」が設けられている。この他、社会科、家庭科等、他教科等で学んだことを生かせる活動が設定されている。児童がすでにもっている経験や知識を生かし、児童の意欲を高め、活動内容を深めるよう工夫されている。

〔例〕 5年 P92 「言葉について考えよう」 (国語科)

5年 P82～89 Unit 7 「What would you like?」 (家庭科)

6年 P79 Fun Time 6 「学びをつなげよう」 (社会・図画工作科)

## 2 使用上の便宜

- 言語材料、言語活動、題材内容など各方面にわたって、平易なものから難しいものへと段階的に指導できるように配慮され、児童の発達段階に応じたコミュニケーションのレベルや題材の扱いとなるよう工夫されている。内容の構成は、第5学年、第6学年とも1年間の学びのスタートであるLet's startから始まり、Unitとそれを支える教材を関連づけながら学習を進めていく構成になっている。Hop!、Step 1・2、Jump!はそれぞれ見開きで共通した構成になっており、基礎的な知識理解、技能の習得と活用から思考力、判断力、表現力を養う言語活動へと至る学習の過程となっている。各UnitのHop!は見開きを使ったパノラマのイラストで、Unitのストーリーを視聴して概要を捉えることができるよう工夫されている。
- 判型については、A B判を採用している。その為、紙面が大きく見え、児童が学習しやすいよう配慮されている。
- 巻末には、「絵辞典」「ペンマンシップ・シート」「Let's play sugoroku.」「学びのパスポート」等がついている。絵辞典はカテゴリー別に語彙が整理され、既習の語を探して使えるよう工夫されている。ペンマンシップ・ノートは水性ペンを用いて、文字を何度も書いて練習できるようになっている。Let's play sugoroku.はすごろく遊びで、「英語でできるようになったこと」を確認できるよう工夫されている。また、学びのパスポートには学んだことを書き込むことができるようになっており、学年末に自分の成長を振り返ることができるよう工夫されている。他にも巻末には「学習した表現」の一覧や、アルファベットの音と文字の関係を一覧にしたSounds and Lettersのまとめがあるので、学習を振り返ることができるよう工夫されている。

〔例〕 6年 P118～135 「絵辞典」、P140～142 「Let's play sugoroku.」

- 各Unitのレイアウトが統一されており、同じ種類の情報を決まった位置に配置し、児童が迷わずに学習に取り組めるよう配慮されている。当該学年以上の配当漢字には全て振り仮名が付されている。児童が学習しやすい4線の幅に対応した字体のアルファベットを使用している。本文用紙は、軽くて裏写りにくく、鉛筆で書き込みやすい質感の紙が用いられている。カラーユニバーサルデザインへの配慮を行い、色覚特性のある児童も学習しやすいように紙面が工夫されている。

## 3 その他

- 世界12か国の子どもたちの生活の様子や、世界で活躍する日本人を題材として取り上げる等して、自国や他国への関心を高め、その生活や文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うよう配慮されている。また、ひな祭りや七夕など、日本の伝統行事を外国の人に紹介する活動が設定され、日本には季節ごとにいろいろな祭りや行事があること、また地域によっても多様であることに気づき、伝統文化への関心が高まるよう工夫されている。

〔例〕 5年P50～51 Review 「世界の友達1」、6年P28～35 Unit 2 「Welcome to Japan.」

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
英 語	Blue Sky elementary	6 1 啓林館

## 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 第5学年では、主に自分の身近なことや知っていることを英語で表現する内容を多く扱い、第6学年では、自分たちの町や地域の紹介、小学校の思い出紹介、将来の夢紹介等、身の回りのことをもう少し詳しく調べたり、身の回りから少し離れたことを知ったり、考えたりしながら学習する内容を多く扱っている。いずれも児童の興味・関心を引き出す内容を扱い、主体的な学習を促している。各Unitには3つのPartがある。各Part末のActivityでは、ペアワークやグループワークが設定されており、主体的・対話的な学習を通して自分の考えや気持ちなどを伝え合う力が養えるよう配慮されている。各Unitの最初に設定されているListen and Guessでは、英語の意味や使い方について、児童が推測し、自ら考え、理解できるような学習活動になるよう工夫されている。

〔例〕 6年 P30～39 Unit 3 「I want a big park in our town.」

P30 「Listen and Guess」、P37 「Activity」

- 基礎的な語彙や表現は、各UnitでListen and PlayやChantなどで明示されている。これらの語彙や表現は、言語活動の中で繰り返し身につけられるよう工夫されている。また、各Unitの構成は短く簡単な表現を聞いて、意味や使い方を推測するインプットの活動から、学習した表現を実際に使って自分の言いたいことを伝えるアウトプットの活動へと発展するよう工夫されている。Unitの最終活動として、学んだ語句や表現を使ってやり取りや発表の活動を行う。定着を図るために、理解した表現を実際に使う活動までをスモールステップで学習できるよう工夫されている。各Unit末のLet's Read and Writeでは、アルファベットを読んだり書いたりする練習を行い、定着を図れるよう促している。

〔例〕 5年Unit 3 P32～33 Part 1 「Listen and Play」 「Chant」

P35 Part 2 「Think and Say」、P37 Part 3 「Activity」

P39 「Let's Read and Write 3」

- 音声をういた教材が随所に設定されており、臨場感をもってコミュニケーションが進められるようになっている。教科書に二次元コードを設けてJingleなどの音声素材にアクセスでき、授業の復習や自主的な学習ができるようになっている。

〔例〕 6年 Unit 7 P75 「Jingle」、P78 「Listen and Do 2」

- 各Unitは扉→Part 1・2・3→Looking Backで構成されている。各Unitの学習後にできるようになりたいことをGOALとして扉で提示し、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。扉ページのイラストは、既習の表現を使ったやり取り (Small Talk) ができるよう工夫されている。また、GOALに向けたスモールステップのめあてを各Partに設け、各Partのページには、めあてに対しての達成度を振り返り、色を塗るバロメータが掲載されている。Unitの最後には、学習した内容を振り返り、自己評価するコーナーとしてLooking Backが設けられている。主体的に学習に取り組む態度を児童自らが振り返る問いも含まれている。巻末にはCan-Do Listがあり、4技能5領域別の目標に対する達成度を自分自身で確認することができる。また、4技能5領域を示すアイコンが設定されており、それぞれの活動で身につける力を意識できるよう配慮されている。

〔例〕 6年 Unit 1 P11 「GOAL」、P12 Part 1 「できたかな?」、P18 「Looking Back」

6年 P120 「Can-Do List」、P2 「4技能5領域を示すマーク」

- 第5学年では、一日の生活、道案内を扱うUnitが設定されている。第6学年では、自分たちの町・地域、週末のできごとを扱うUnitが設定されている。学習を通して、家での役割分担や週末の家庭での過ごし方を見直すとともに、自分の住む地域への関心を促す題材が設定

されている。

〔例〕 5年 P30～39 Unit 3 「I sometimes walk the dog.」

6年 P52～61 Unit 5 「What did you do last weekend?」

- 題材については、児童の身近な場面から導入を図り、抵抗なく英語にふれられるよう配慮されている。身近な人とのやり取りを中心とした場面、思い出を伝える場面や自分のこれからについて発表する場面等が扱われている。登場するキャラクターは同年代の小学生や小学校の先生が設定され、児童が人物の言動に興味をもって学習を進められるよう工夫されている。防災・安全等の今日的な話題も取り上げられている。

〔例〕 5年 P20～29 Unit 2 「I study math on Monday.」

6年 P84～93 Unit 8 「I want to join the brass band.」

- 日本語との語順やアクセントの違いを取り上げており、国語科との関連が図られている。第5学年では、表やグラフを読んだり作成したりする活動が設定されており、算数科との関連が図られている。第6学年では都道府県の特徴や外国の祭りや習慣を扱っており、社会科との関連が図られている。この他にも、他教科等との関連が図られるよう工夫されている。

〔例〕 5年 P50 「Did you know?」 (国語科)

6年 P20～21 Unit 2 「Welcome to Japan.」 (社会科)

## 2 使用上の便宜

- Unitの各Partに見開きで2単位時間という余裕をもたせた時間配当で構成されている。第5学年、第6学年ともに8つのUnitが設定されている。各Unitの最初のページでは、イラストを見ながら英語を聞き、Unit全体のめあてを確認してからPart 1へと進む構成となっている。短時間で終わる活動や繰り返し学習する活動にはモジュールマークが付いており、状況に応じて柔軟に扱えるようになっている。各学期の最後にはREVIEWが設定されており、Unitで学習した表現の復習と活用ができるようになっている。

〔例〕 6年 P2 「モジュールマーク」、P40～41 「REVIEW 1」

- 判型については、A B判を採用している。製本はページが大きく開けられるよう配慮されている。

- 巻末のWord Listはカテゴリー別に学習する単語が一覧となっている。どのUnitで学習する単語かがわかるように、Unit番号が明示されている。二次元コードを読み取れば単語の読み方をすぐに音声で確認することができる。第5学年、第6学年ともに絵を見ながら物語の内容を推測するStoryコーナーが巻末に設定されている。巻末の絵カードは切り取りやすいようにミシン目が入っている。各ページにも「→絵カード」のアイコンがあり、どのUnitで絵カードが使えるのかわかりやすくなっている。

〔例〕 6年 P100～118 「Word List」、P96～99 「Story」

- 日本語にも英語にもユニバーサルデザインの字体を採用している。行間にゆとりをもたせたり、読みやすい文節で改行したりするなど、読みやすい紙面になるよう配慮されている。4線幅の比率は、5：6：5となっており、小文字が認識しやすいという工夫もされている。教科書全体をやさしい色使いでシンプルなデザインにするよう配慮している。

## 3 その他

- 英語の学習を通して、英語圏のみならず、広く世界に目を向け、国際理解、伝統文化についても幅広く考えられる題材が取り上げられている。各Unit末に設定されているDid you know?のコーナーでは、自国の文化について理解を深めたり、外国の言語的・文化的な内容に気づいたりすることができるよう工夫されている。

〔例〕 5年 Unit 3 P36 Part 3 「Listen and Do」、P38 「Did you know?」